



座光寺風景

秋に舞う若連中の心意気

今年は東日本大地震が3月に発生し、若連中と麻績神社、地域の先輩方との協議により、秋の獅子舞披露となりました。春からの思いが舞に込められていました。(場所：麻績会館前)

麻績神社秋祭り開催

十月二十二日(土)、二十三日(日)の両日、麻績神社秋祭りが開催されました。

本来であれば麻績神社の獅子舞は毎年四月第一日曜日に行われるもので、今年も獅子花造りや獅子舞の稽古などの準備をしてまいりましたが、三月十一日に発生した東日本大震災の影響により、春祭りでの実施について協議を重ねたうえで、止むを得ず延期とさせて頂きました。その後、関係各所との調整を行い、秋祭りでの獅子舞等の披露を決定いたしました。

例年とは違う時期の開催ではありましたが、勇壮な獅子舞と小学生による獅子曳き、華麗な舞の越後獅子、囃子屋台と愛嬌たっぷりのおかめ、ひよつとこ、げじげじ等が練り歩き、最後には無事に麻績神社に奉納することができました。

また、当日は座光寺公民館において敬老祝賀会が開催されており、普段なかなかお祭りを見ることができない方々にも楽しんでもらえるように、栈敷席を用意し、御神酒の振

舞い、麻績太鼓の演奏、越後獅子の演技、獅子曳きと獅子舞を間近で見えていただくことができました。

地域の方々のご理解とご協力、そして心配された天候にも助けられ、大変素晴らしいお祭りを行うことができました。

秋祭りでの開催について、いろいろな方々からアドバイスやご意見を頂きました。地域の方々のこのお祭りに対する思い入れ、熱意、地域全体が伝統文化として一体となっていることを、非常に強く感じました。

獅子舞の本来の意義を改めて考えると共に、来年以降、災害などがなく、『春祭り』として満開の桜の下、無事に開催できるように願いたいものです。



栈敷席より楽しむ敬老会の皆さん

リニアはどう考える

驚異の早い展開

数年前まで、リニアはまだ夢物語とされていたが、平成十九年十二月にJR東海が自己資金で建設すると発表されて以来、俄然現実味を帯びてきた。そして、二十年には、JR東海がCルートでの建設を公表、二十二年十月には国の諮問機関の交通政策審議会でCルートが優位であるとの試算結果が報告され、事実上ルート問題を決着し、本年五月二十六日に整備計画決定で正式決定となった。

さらに、本年八月五日には、JR東海からルートと駅位置案が発表された。飯伊地域は現飯田駅設置を主張していた



自治会長 湯澤 英範

が、JR側と異例の協議の結果、九月十三日JR案で決着。いまや、座光寺が駅の最有力候補地であり、二年前には全く想像しない事態。この間の経緯は驚異のスピードであり、今後私たちは、この動きに乗り遅れることのないよう機敏な対応が肝要と思われます。

JR東海へ意見提出

JR東海は本年九月、リニア中央新幹線の環境影響評価を行うために必要な対象事業の概要や評価方法などを記載した環境影響評価方法を公表した。これに対し座光寺地域自治会では、説明会等で情報収集後、地域振興会議で協議し、次の七項目の意見をJR東海へ提出した。概要は次のとおり。何れも貴重な意見で、今後どのように取り扱われるか注視していきたい。

- 準備書公表までの間必要に応じて状況説明を行うこと。
- 駅舎等の施設からの雨水排水は、既存施設に負荷を掛けないこと。
- 駅施設の高さは景観や生活

環境を著しく害するもので影響を最小限に配慮のことが高い恒川遺跡群を避けるよう配慮されたい。

○トンネルの排土方法の早期明確化と本体工事同様の環境配慮をお願いしたい。

○高架橋の通過によりコミュニケーションの崩壊とならないよう配慮されたい。

○地域で定めた座光寺地域土地利用計画を尊重されたい。

これからの展望

リニア中央新幹線は、私たちの生活環境や地域の自然景観に大きな影響をもたらし、今日まで培ってきた座光寺の文化と歴史の薫る里として、のどかなイメージが大きく変わることは想像に難くありません。

座光寺地域自治会としては、リニアという巨大プロジェクトを地域づくりの中に如何に取り込んで行くかが重要な課題と認識しています。

そこで、はじめに、多くの方が心配されているリニアの騒音とか磁気などについて理解を深めるための学習会を、出来るだけ早期に開催し、疑問や不安を解消する一助となることを期待しています。

世紀の大プロジェクトに對峙していくには、地域に思いと

いうか意思がないと、大きな流れに呑み込まれ、住民不在のまま万事が遂行されていくことを懸念しています。

そこで、座光寺にリニアの駅が設置されることを想定して、どのような地域づくりを目指すか、夢や思いを語り合い、住民自らが座光寺の将来

のあり方を検討する必要があります。

そして、その思いを市との連携を密にしながら、地域の要望としてその実現を目指して参りたい。

われわれが住む地域の大きな変革に、納得のいく地域づくりが実現できるよう悔いのない取り組みを地域一丸となつて進めていくようではありませんか。

住民の声

▼リニアが出来る事で座光寺が大きく変わるのは間違いないが、どこがどう変わるか情報が全く不足している。噂ではなく正確な情報を迅速に発信して欲しい。

(四十代男性)

▼リニア建設中の騒音や建設車両による交通量の増加で子ども達の安全が守られるのか？などが心配のひとつです。

(三十代女性)

▼十七年後、座光寺周辺にリニア駅が出来事になりましたが、それには人と町の有様が大事だと思います。

企業誘致も大事ですが、癒し形の思いやりに満ちた町を目指すべきです。

(五十代男性)

▼一、長期的展望

- ・子孫に残す町づくり
- ・大学など公共施設の誘致

二、短期的展望

- ・スマートインターアクセス
- ・駅周辺の展開、開発

(五十代男性)

▼リニア駅が建設されることで平和な座光寺の生活が激変しないか心配です。獅子舞も高岡の森から出発出来なくなったりして…。

(四十代男性)

■福祉講演会■

「認知症にやさしい
地域を目指して」

健康福祉委員会



講師の坂本圭介氏

十一月十三日(日)に健康福祉委員会主催で座光寺公民館大会議室にて飯綱町社会福祉協議会認知症支援室長の坂本圭介さんを講師に開催されました。

この時期は市田柿の最盛期に入り参加者も心配されましたが、七十名の方が足を運んで下さいました。七十代・八十代のご夫婦での参加もあり、認知症を身近な問題として聞いて下さっていると感じました。

『ボケたつていいやさ

おれたいるわさ』

(ボケたつていいじゃない俺たちいるよ)の精神を柱に、国からのモデル地域の指定を受けて、北信飯綱町の認知症対策の取り組みをお話していただきました。

今回は「あるがままを、その式『認知症を知ろう知りました

い知るために』と題して飯綱町が作成した啓発用資料とOHPを見ながら、認知症の単なる知識よりも、その実態をわかってほしいという思いから以下の点について話がありました。

・認知症は脳の病気であること。(予防できるって知っていますか)

・認知症で一番大変で困っている人は本人であること。

飯綱町の取り組みは、アンケートや啓発活動(会合キヤラバン八十二回開催、千百人参加)、徘徊模擬訓練、個人情報にとらわれず徘徊の方用支援マップ作成(認知症患者がいつも歩くコース、自宅までの近隣の家などが入った地図)、ポスター「ボケたつていいやさおれたいるわさ」の作成と掲示、資料(あるがままその一、その式)の作成など、多方面に亘り、それが住民の皆さんの手によるものであり、ただただ感心するばかりでした。

座光寺地区で暮らし続けるためには、本人の支援マップ作成(いざというときのために、身近な貴方の支援者やサビス窓口をメモしておくもの)や、徘徊の方を見つかったり、困っ

た時は地域包括支援センターへ連絡することが大切であることを話して下さい、会場にいるみなで、その番号をメモし合いました。

(飯田市地域包括支援センター)
電話番号 56-1595

質疑応答では、「現実問題として、家族が地域に家の〇〇が認知症だと言えない。知らされるまで言っていない。そういう家庭にどう接するのか?」との質問に、坂本さんは「周りから声掛けしてあげて家族が心ひらくこと。こんにちはの挨拶のあとに何かこまってることない:手伝うことあるかなと接してあげて。」と話されました。思いきつての声掛けも大切なんだナー:と思いました。



講演に参加して、少しでも認知症に対して心の窓が開いたように思います。また、もつと前に知っておけば良かったのと思う内容もありました。「認知症になっても座光寺に住んでいるからだいようぶだに」といえるようこの南信のあたたかさが地域融和社会に広がることを願います。

会を予定しています。広報座光寺くおしらせ版くにてご確認ください。

家族、地域で支える地域づくりを目指して認知症に対する知識、意識を深めるために開催します。どなたでも参加自由です。是非お出かけください。

今回参加して下さいった皆様、坂本さん、役員の皆さんありがとうございました。(坂下)

今年の地域づくりフォーラムに参加しましょう

運営委員長 塩 澤 哲 夫

「フォーラム」というのは、「公開討論」ということです。地域の皆さんが集まって、公開の場で自由に意見を言いかうということ。座光寺の文化祭にこういう機会があるということが地域を考える時にとっても大事だと思います。

今年は、昨年に引き続き「福祉」に焦点を当てて、家族・家庭で対応するだけでなく近所や地域の皆さんで取り組んでいかなくてはならないこととしてとらえ、地域の皆さんみんなで考えていきたいと思います。

テーマは、「みんなでつくる安心社会」地域の支え合いとします。皆さんが、座光寺をどんな地域に作っていきたくて考えておいでなのか、みんなで考え合いたいと思います。

柔軟な考えを持ち活動のエネルギー一杯の若い皆さんから豊かな経験があり先を見通している先輩の皆さんまで、是非大勢の皆さんが集い討論に参加していただきたいと願っています。

来年の二月四日(土)午後四時に座光寺公民館へお集まりください。

子ども科学教室

●飯田工業高等学校
●公民館大会議室

子ども科学教室 Vol.1

十一月三日(木) 祝に飯田工業高等学校で子ども科学教室△△△を開催しました。今年も生徒と先生に指導いただき「電子おみくじ」「メタルトンボ」「紙飛行機」を親子一緒に作りました。制作終了後は、生徒の皆さんが制作したロボットやイライラ棒などで遊んだり、校内の見学をさせていただきました。普段経験できない体験をすることができました。最後に、生徒扮するご当地ヒーロー「テックレンジャーショー」のサプライ

ズイベントがあるなど、非常に楽しい体験学校となりました。このような地域の中の一つながりが更にひろがることを期待しています。



テックレンジャー

子ども科学教室 Vol.2

十二月四日(日) におもしろ科学工房の皆さんにご指導いただき、子ども科学教室△△△を開催しました。今年

年のサイエンスマジックショーはコップに入れた水が消えたり、長い透明なホースの中で火花が走るなど、不思議な科学の世界にびっくりしっぱなしでした。マジックショー終了後は「モデルロケット」「ホバークラフト&バルーンスライム」の制作を行いました。制作終了後は



バルーンスライム

小学校校庭に移動してロケットの打上げを行いました。カウントダウンの後、子ども達の夢と希望を乗せたロケットは空高く打ち上がりました。

竹田人形座「竹の子会」 渋谷区民フェスティバルに出演

十一月五日、竹の子会は、「渋谷区民フェスティバル」に参加しました。この大会は、区民が渋谷を「わが故郷」にしてほしいとの願いを込めて二日間開かれる参加者百万人規模のもので、今回で三十四回を数えます。

全国からお国自慢が集まり、それぞれのブースで故郷自慢を披露しました。我が竹の子会は人形の町飯田を代表し、りんご千個を持参し、「子どもの夢」と「都獅子」披露しました。

団長の片桐直夫さんは、「大勢が強い関心を持ち鑑賞して下さいました。リニア時代の将来を見据えて都会との交流を深めていきたい。」と語られました。



竹田人形座の熱演

声

投稿欄

前号の「声」を読んで
私もやります靴そろえ

広報に、「声」の欄が生まれてから、毎回楽しみに読ませていただいています。はっとさせられ我が身を振り返ったり、一緒に参加しようかと考えたり、希望を膨らませたりしています。

声は、一個人の思いや願いですが、地域社会を見つめ考え合い、住み良い座光寺にしていくな契機になると思います。せつかくの思いを自分の内へ閉じ込めないで、この欄も思いを語る場としてください。あなたの声を読者が受け止め、明るい波纹が地域に広がればと願っています。

前回九月号に、「やらまいかー！靴そろえから」との声の投稿がありました。公民館体育部の行事の折、部員のちよつとした気遣いから、下足が揃い、子どもがそれを真似して気持ちいい思いをしたとの体験から、ちよつ

とした小さい心遣いから和らぎの風が吹きみんなが気持ちよくなる。小さいことから小さな心遣いから地域を気持ち良くという声でした。私も思いました。確かに履物の揃った気持ちよさは格別。どこでも何時でも履物が揃っていたらどんなに素晴らしいことでしょう。ほんの少し気をつければ、幼児から大人まで誰でもできること。そして、気持ち良さを体験できます。また、一瞬立ち止まり、自己を振り返る生き方にも繋がる、大切な行いです。これが習慣として地域に根づいたら、本当にすばらしいことです。

ちよつとした気配りを地域全体に広げ、地域の宝にしたいと思います。その手始めに、自分の履物は揃え、曲がった履物は恥ずかしがらずに直します。

(広報部員×)



座光寺地域における

有害鳥獣の被害

座光寺地区財産区議員

議長 下村 征夫

座光寺地区の皆様には日頃財産区の活動に御理解いただいてありがとうございます。

本年度地区内山林二六〇町歩の他町村境界の見回りを終えました。境線にはコンクリートの「クイ」が入っています。先代の財産区議員の方々に感謝いたします。山も植林した木が四十年近く生育を続けていますが、近年熊鹿の皮むき、新芽を食べる被害が多く、長野県農林業全体で四億円ほどの被害額となっています。

座光寺山では特に座光寺富士牛道門に被害が多い。里から見て茶色の部分は熊が皮をむき、木は枯死している。対策として鉄砲ワナ等の使用で対策をしています。自然界より見れば人間も動物も一緒に、



熊の皮むき

その生息地への植林ですので無理も有りますが、近年行政でも広葉樹の植林をして水源確保、野生動物の餌ドングリ等増やす方向に進んでいます。

入山して感じますことは、熊鹿が特別増えた、熊の皮むきが多い。残念なことに自然界では人間より熊や鹿の動物の方がはるかに行動力、警戒心、嗅覚がすぐれていますので十分対策の効果が表れないのが現実です。

別の項で説明が有りますが、有害鳥獣対策班長の原地区の代田勝君が野生動物行動に精通していますので、その指揮下で山林の被害防止に務めております。

有害鳥獣による

農業に対する被害

飯田果樹部会座光寺支部

副支部長 常間地富男

野生鳥獣と人間との戦いは今に始まった事ではなく原始時代から有り人間の知能が少し上回っていたため鳥獣を制圧して現在に至っていると思います。しかし近年全国的に



熊が梨を食べたあと

人里に現れて農作物を荒らしたり山の木の皮を剥がして枯らしてしまう被害は長野県内で年間四億円とも言われています。当座光寺地域でも原・宮崎の山際の果樹園や畑には熊、鹿、イノシシ、猿、ハクビシン、

又地域全体には空からカラス、ムクドリ、ヒヨドリ等が襲来し一年間に数十万円の被害農家もあり、畑のまわりにトタン板を張りめぐらせたり園全体を網で囲ったり、爆音機を鳴らして地域の皆様には迷惑をお掛けし申し訳ありません。又猟友会の皆様に鳥獣の駆除をしていただいております感謝申し上げます。もし猟友会がなかったら小学校から上の段は野生の王国と化してしまうでしょう。

しかし野生鳥獣が悪者ではなく、彼らにも生きる権利があり、人間どもの欲望の犠牲になった鳥獣に合掌。

有害鳥獣対策について

座光寺猟友会有害鳥獣対策委員

代田 勝

私達、座光寺猟友会は横前会長を中心に少人数ではありますが、財産区や農産物生産部会の依頼を受け、毎年四月に講習を受けて資格を得てから地区内の鳥獣の捕獲を行っています。

近年、林業農産物の被害は広がる一方であります。特に鹿は竜東から竜西へ移動して年々頭数を増やしています。一度、里の食べ物の味を知ってしまったと中々、山へは戻りません。猪、猿も同様で年々、増殖の一途をたどっています。このまま放置しておけば田畑は荒れ、農産物は収穫できない状態になってしまいます。このような事態になったのは、人間にも責任があるのではな



捕獲した熊

いでしょうか。山の手入れを怠り、不耕作地の増加等これから見直さなければならぬことです。

このような鳥獣の命を、私達猟友会は少しでも供養する為、山の神の一角に供養塔を造りました。お近くにお出掛けの際には、是非お参りをしていただければ幸いです。

なお、私達猟友会は地区の皆様にご迷惑をお掛けしないように、マナーを守り安全を第一に心掛けております。

また、会員不足が悩みの一つでもあります。特に若い方々でご協力いただける方は、是非入会をお願いしたいと思います。

地区の皆様のご理解、ご協力を宜しくお願い致します。



慰霊碑

買い物弱者救援システムについて

― 試行と今後の展開 ―

自治会副会長 田 口 博 人

座光寺地区では、平成二十三年十一月十五日〜平成二十四年二月十五日迄買い物弱者支援制度の試行運行が決定しました。

システムを企画しました。
座光寺地区の公共交通は飯田市の路線バスの阿島循環線と乗合タクシー上市田線とJR飯田線です。

これは平成二十二年度に座光寺地域全住民を対象に実施した外出に関するアンケートにおいて、日々の買い物に不自由している住民が多いことが判明しましたので、このシ

座光寺地区には買い物する店舗が無くなり、キラヤ黒田店と上郷飯沼のイオン飯田店とAコープ喬木店が公共交通のバス等を利用して買い物が出来る店舗となっております。

しかしながら、阿島循環線と上市田線の時刻表は病院の通院を主に考えて組まれており買い物には適しておらず、朝行つて買い物を済ませ、午後迄待つて帰るため待ち時間が大変な現状です。
公共交通の利用人数が減少すると公共交通が打ち切られバス路線が無くなってしまふ恐れもあります。

平成十九年に新しく発足した自治組織の基本構想・基本計画の中間年の五年目を迎え、当初予定されていた見直し検討委員会が発足し始動致します。

先に、五年前発足時の策定に取り組んで頂いた各部会から御一人顧問として迎え、顧問会議を開き、見直しの方針等について、ご意見を頂きました。

見直し委員会は各区より三名の方の御推薦

を頂き、自治会推薦で各委員会特別委員会、各種団体、若い農業後継者の団体、女性等に入って頂き、より多くの方の議論を通して、座光寺地区の向かう方向を考えて行きたいと思ひます。

九十年前の伊那電の開通、三十年前の中央道の開通、そしてここに来てのリニア新幹線中央道インターの問題。横幅3km程の座光寺の地に、東西方向にリニ

ア、南北方向にインター設置道路、都合が良くなつても、住む人が居なくなる里になつては困ります。
これからの五年間は大きな動きがあり、しかも早い速度で進むと考えられます。

今年発足した見直し委員会では充分議論して、将来の座光寺地区の在り方の方向を、地域の皆様に提示していきたいと思ひます。

今年度は座光寺地区自治会で四十万円の予算が計上されていますが、この四十万円が仮に三ヶ月の試行運行期間で必要となると、平成二十四年度に一年間運行すると予算が百六十万円必要になり、自治会だけでは予算の確保が難しくなり、長野県とか飯田市で補助金を出して頂かないと通年の運行が出来ないのでは無いでしょうか。とにかく予算の確保が重要になります。

最近では飯田商工会議所で地域元気づくり支援金事業を使い、丸山滝の沢地区、上郷黒田地区、座光寺大堤地区を毎週金曜日に「しあわせ市場配達便」と称する販売車が十月二十一日から巡回をし始めましたが、これも平成二十四年一月二十七日までの予定で

最近ではテレビ・新聞等で、大手スーパー等が移動販売車での販売を始めたり、前もって注文を取って買い物に困っている人に配達をする事も報道されています。

座光寺地区でも試行運行の結果をまとめ、来年度以降の様々な方法を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

伊那郡衙「郡庁」確認間近か？

恒川遺跡は、「伊那郡衙」と呼ばれ、上伊那南部から飯田・下伊那地域を治める奈良時代の役所跡で、今までに十八棟もの倉庫群、役人の宿泊施設、台所などが見つかっています。あと、役人が仕事をした「郡庁」さえ見つければ、国指定の貴重な遺跡となります。

昨年、その確認を目指して高岡の加藤ポンプ店駐車場調査が行われています。十二月三日現地説明会があり、北側から大きな建物の柱跡と思われる柱穴が十六基見つかり、南側から平安時代に大型の建物(門・正倉・寺院等)を建てる際に行われた、地下を掘り下げ礫を入れ地盤改良工事をした跡が見つかったとの説明がありました。

「郡庁」の特定には至っていないが、その存在の確定も近いと期待されます。高岡古墳群と共に、史跡保存ゾーンとしての整備を進めなくてはなりません。その一貫として、この度教育委員会に、旧ルミア光学跡地を市有地とし確保するよう要望いたしました。

座光寺を愛する子どもたち

座光寺小学校PTA会長 對馬 正貢



耳に入れていただき、その後の解決策も早くに実行されることだと思っています。

ただ、この「座光寺の子どもを語る会」に保護者の方々の参加率が少ない事は、今後の改善点の一つです。公民館を主体に、地域の方々に加わっていただける機会なのですが、保護者には余り共感を受けていないのか、「子どもを語る会」だと、自分の子どもが批判を受けたりするような感じがあるのでしょうか？今ひとつ、魅力が無いように囚われているような気がします。

夏休みに入る前に行われた、水辺の学習会や昆虫観察会などのように、地域の方々が賛同して子どもたちが活動できる事業と同様に、子どもが育つ



十一月十七日に「座光寺の子どもを語る会」が、地域振興の方々のご同席を得る中、小学校の体育館で行われました。全体会で児童に実施したアンケート結果の報告から、積極性に富み明るい気持ちで日々生活している姿を知りました。そして、座光寺の人は皆優しく安心して登下校が出来るという、子どもたちにとって住み易い地域「座光寺」を知る事も出来ました。自然環境や、人間環境の部分で子どもたちが感じることは良い形で存在している「座光寺」を改めて触れる報告が聞け、嬉しく感じました。

グループ討議では、地区ごとの色々な面での問題点が語られ、地域の関係者の方々の



ていく環境整備をどのようにしたら良いかを考える場として考えていただければと思います。

子どもが育つていく為に、ここ座光寺はこういう風にあって欲しい、こういった方向へ進んでくれればと理想を語っていた事で、とても良い機会だと思っています。時代も二十一世紀に入り十年が過ぎます。今の子どもたちが社会で活躍する頃には、リニアモーターカーで首都圏を行き来している事でしよう。愛する座光寺に居場所をおきながらも、世界的に活躍する人材も生まれているかもしれない。子どもは地域の宝です。「PTTA」、親・教師そして地域住民の連携によって、他の見本となるような麻績っ子を育てる為に、この機会を活かして頂ければと願っております。

防災訓練の反省と今後

自主防災連絡協議会

副会長 長沼 春雄

日頃より、地域防災にご理解ご協力いただき厚くお礼申し上げます。

九月四日実施の防災訓練の反省と今後の防災体制の見直しについて考えました。まず、一時避難所⇄区災害対策本部との連絡の仕方。無線機があれば細部に連絡等が出来るのではと思われる。又一時避難所が重要である事がまだ理解されていないような気がする。座光寺地域災害対策本部において図上演習の題材を防災アドバイザーに出してもらい、対応の仕方を考えたが、本来、各区、各地区から情報を提供してもらい、それを基に訓練を行なった方が現実的である。今回新しく購入した無線機を使つての連絡、報告等はス



日赤の皆さんによる炊き出し訓練



ムーズに行えた。重要な、安否確認は、迅速性と正確性の両立が難しい。特に

アパートなどは問題があると思う。又地区外に出ている人もいて全員の確認には問題も多く出てくるのでは。今後の訓練においては、安否確認の方法、精度を検討していく必要がある。家の倒壊などにより、柱の下になつて身動きできない人たちをいかに早く助けだすかも問題になつてくる。今言われている個人情報保護により、安否確認を困難にしている。全体訓練としては、雨で屋内で行なつたが、ダンボールを利用した避難所、簡易トイレ、などの利用方法の説明は、参考になつた。災害などは、いつ発生するとも限らないから雨天の場合での対応も訓練しておく必要がある。今回の訓練について、市の訓練が中止になり地区も中止だと思ひ参加しない人もあつたが、自主防災連絡協議会の役員の方は地元への連絡を密に行い全地区防災訓練への参加をお願いしたい。

No. 11

『地域の歴史にふれる』

シリーズ

大堤と松林

現在大堤と松林地籍の戸数は二八二戸であるが、明治四年の屋敷図によると家は一軒もありません。寛文六年（一六六六）の「検地帳」という土地台帳によると、唐澤寄りから「立きよう塚」「よこみち」「つつみの脇」「つつみの下」の地名があります。本沢を越えると「原田」「案地原」と呼ばれています。この頃には、大堤があったことがわかります。上の堤は重ね堤といって、安永八年（一七七八）に築造されています。堤の北側には水田、堤の廻りには原畑がありました。宮崎から大堤下を通り、耕雲寺裏から小寺子を通る横道があり、主要な道路の一つでありました。嘉永四年（一八五二）に大門原の新田開発に続き大堤周辺の新田開発も行われていました。その頃、「松林」の呼び名はありますが、開発の記録はありません。

て発掘作業が行われています。日曜日毎の発掘作業ですから全面的調査は行われていません。発見された住居址は四〇〇〇年ほど前の縄文時代中期の住居址二軒、二〇〇〇年ほど前の弥生時代後期の住居址が八軒見付かっています。出土した壺形土器は特徴がはっきりしていて、「座光寺原式」という土器の規範とされています。全面的調査は出来ませんでした。大きな溝が方形に取り巻く様子があり、その中に住居跡が並んでいるように思われます。大きな弥生時代後期の集落があったと思われます。その場所の中心は、大堤西側を通る道路の東側一帯でありました。縄文時代の住居址は県営住宅のある辺りで、副炉を持つ大きな石組みの炉も発見されています。



座光寺原遺跡の発掘作業
(座光寺小学校児童)

昭和四十六年には、東側の低地の発掘調査が行われています。特徴のある遺跡は古い時期の水路が発見されました。場合に寄れば縄文時代の水路であったかも知れません。この場所一帯は低いところで、縄文時代晩期といわれる時期の土器片が多く出土しました。この晩期という時期は低地に集落が構成されることが多く、

数少ない晩期の重要な遺跡の一つであります。気をつければ何処かで発見されるかも知れません。広域農道の通過する一帯は中島遺跡といわれます。古い時代のは「津つみ下」呼ばれていたようです。弥生時代の住居址が集中する所で、座光寺原式土器と共に中島式土器の標準遺跡とされています。松林地籍のことは古い時期の記録は少なくありますが、古くから「立きよう塚」ともいわれています。「経塚」というお経を納めた塚があったかも知れません。以前に串原茂喜さんのご案内で調べたことがあります。小高い土盛りがあったことを覚えていますが、その位置は不詳であります。何方か記憶のある方はいませんか。近くの崖から「古銭」が出たと伝えられています。唐沢なぎじりから登る山道の近くかと思われます。寛政年間には

清次郎という人が柴間開発をした記録が残されています。
(今村善興)

シリーズ執筆者
今村善興さんの逝去を悼む

本誌面に、「郡衙の里・麻積の里座光寺」の歴史を連載してくださった今村善興さんが急逝された。

先生は、日夜郷土史研究に務められ、専門の考古学のみならず、地域史全般に通じ、雑誌「伊那」への投稿論文だけでも百篇に及びました。

先生の郷土への思いは熱く、資料館の文書や民俗資料の整理、「座光寺村史」「私たちのふるさと座光寺」、写真集「座光寺100年」等の編纂等を主導されました。

また、史学会会長、歴史に学び地域をたずねる会顧問として、地域の資料の発掘、保存・収集、地域学習会の発展、高岡・恒川遺跡（史跡保存ゾーン）の整備・利活用等に強い願いを持たれ、労を厭わず地域づくり活動を支えて下さいました。

本誌のためにも、あと十九箇所を明らかにする計画案を持ち、その内四編が遺稿として残されました。先生を偲び引き続き掲載させていただきます。

編集後記

T P P が国論を二分した大問題になっています。

米や畜産の農家は壊滅的な打撃を受けるらしい：

国民皆保険制度も危うくなるらしい： 心配で仕方ありません。

何が心配かって、それは、「らしい」という事。

様々な噂がささやかれて、それが本当の事なのか嘘なのか、実は誰も知らないのです。リニア問題がこれと良く似ていると思います。

駅は〇〇らしいとか、線路は〇〇らしいとか、本当の事は誰も知らないけれど、噂でみんなとつても心配しているのです。

私たちの生活に大きな影響をあたえる大問題。私たちに「本当」の情報がもたらされるのは、いったい何時なのでしょう？そしてその時、私たちの意見を聞いてもらえる時間の余裕はあるのでしょうか？

た、たの噂で無用な心配をしなくても済むように、噂が本当だとしたら、私たちの意見が届くように、早く本当の事が知りたいのです。

(広報 篠田)